



2015年7月31日(金)～

8月27日(木)の活動

○ 政府要望活動

7月30日(木) 31日(金) 東京都

「政府に対する北陸経済界からの要望書」が、総合対策委員会(北村委員長)と常任理事会での審議を経てとりまとめられ、政府・与党、国土交通省、経済産業省をはじめとする関係省庁や北陸三県選出国會議員など合わせて230名以上に対し、7月30日～31日と2日間にわたって要望活動を実施した。

今回の要望検討では、ワーキングメンバーの追加等を行い、従来以上に多方面にわたる意見を集約した。

要望活動については、久和会長が自民党三役(谷垣禎一幹事長、二階俊博総務会長、稲田朋美政調会長)、公明党の井上義久幹事長、漆原良夫中央幹事会会長らと面談。要望書に基づき、北陸新幹線や高規格幹線道路などの社会インフラの整備促進、原子力発電所の迅速な安全確認と早期運転再開、北陸地域の産業競争力強化や観光振興に向けた支援などを要望した。特に、北陸新幹線については敦賀までの平成34年度末の確実な開業、大阪までのフル規格による早期全線整備などを強く要望した。

また、女性部会の浅野邦子部会長(株)箔一代表取締役会長)と森田弘美副部会長(株)グループフィリア代表取締役社長)が30日に、会員大学を代表して山崎光悦金沢大学長が31日の要望活動に同行いただき、それぞれ女性の活躍推進や地方大学への支援等を要望した。

(担当:前田)

○ 会員懇談会(石川会場)

8月7日(金) 金沢市

平成27年度会員懇談会(石川会場)をANAクラウンプラザホテル金沢にて開催し、会員約120名が出席した。

懇談会では、久和会長の挨拶の後、西日本旅客鉄道(株)金沢支社の山田潤一副支社長より、「北陸新幹線金沢開業効果の持続に向けて」について説明、その後、同テーマにて自由懇談を実施した。

山田副支社長からは、この秋開催される北陸デスティネーションキャンペーンの説明、九州新幹線の例等をもとに広域周遊観光の推進が必要との指摘があった。会員からはハード面でのおもてなしとしてWiFi環境やミスト設備の整備や、空港や新高岡などの他駅からの二次交通の充実による金沢、能登、富山との連携の必要性などの意見があった。

続いて21世紀政策研究所研究主幹の澤 昭裕様が「いま、何を議論すべきなのか? -エネルギー政策と温暖化政策の再検討-」と題し講演した。

澤様からは、エネルギー政策の基本的考え、発電量、料金の推移や歴史、日本と欧米の再生可能エネルギー

のFIT(固定価格買取制度)の目的の違いをもとにエネルギーミックスの必要性を説明いただいた。

また、現在の原発再稼働議論の構図についての説明もあった。(担当:青嶋)

○ 石川環境フェア

8月22日(土) 23日(日) 金沢市

○ 環境共生会議視察

26日(水) 27日(木) 飯田市

北陸環境共生会議は、いしかわ環境フェア2015に北陸電力(株)ワンダー・ラボの全面的な協力を得て、出展し、児童向けに科学実験教室を開催した。

「LED・エコ・アカデミー」と題した実験教室を2日間で10回開催し、昨年と同じ毎回約30名の親子が実験・工作教室を通じてエコ・省エネ知識を楽しく学んだ。

また、8月26日から27日には、杉田富山県環境政策課長など各県環境政策課長で構成される幹事会のメンバーで、環境文化都市を目指す長野県飯田市を訪れ、先進的な施策である「おひさまプロジェクト」を視察するとともに、牧野飯田市長と環境施策、街づくりについて意見交換した。(担当:吉井)

○ 北陸デスティネーションキャンペーン記者会見

8月25日(火) 金沢市

北陸デスティネーションキャンペーン実行委員会は、キャンペーン開催内容について共同記者会見を行い、実施概要について発表した。

このキャンペーンは、10～12月にかけて北陸を舞台に開催されるもので、「日本の美は、北陸にあり」のキャッチフレーズのもと、五つの美をテーマに心のこもった「おもてなし」で、全国のお客さまを2度3度と訪れるリピーターとなっていくことを目指している。

北経連は、富山・石川・福井の各県と各県観光連盟、JR西日本金沢支社とともに、実行委員会に参画し、一昨年より実施に向け検討を続けてきた。

詳細については、キャンペーン向けにリニューアルされた「北陸物語」ホームページ(下記URL)を参照。

<http://monogatari.hokuriku-imageup.org/index.html>
(担当:小林)

新入会員のご紹介

〔株式会社旭重機工業〕

代表取締役 西川 三郎

(業種:土木工事業)

〒935-0051

富山県氷見市十二町字瀧中開 4322 番地 10

Tel:0766-91-3161 Fax:0766-91-2888